

今日のトピック **インドルピーは対ドルで最安値圏もみ合い
ドル高一服で下げ渋り**

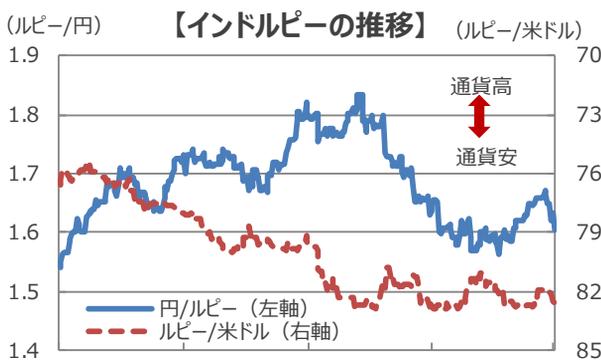
ポイント **ルピーは対ドルで最安値圏**

- 昨年、インドルピーは対米ドルで、過去最安値を更新しました。インフレ加速に伴い米連邦準備制度理事会（FRB）が積極的な利上げを継続したことを背景とした米ドル全面高により、経常赤字国の新興国通貨が売られた影響を大きく受けました。昨年11月以降、FRBの早期の利上げ停止観測が強まり、米ドルが主要通貨に対して反落する局面がありましたが、ルピーは対米ドルで、最安値圏でもみ合っています。
- ルピーは対円では、米ドル高に伴う円安から昨年秋にかけて上昇しましたが、米ドルの反落や日銀の長短金利操作の修正を受けて下落し、上げ幅を縮めました。

今後の展開

**ドル高一服で
ルピーは下げ止まりの兆候**

- 2月にFRBの金融引き締めが長期化するとの観測が強まったものの、ルピーは米ドルに対し、底堅く推移しました。この背景には、昨年と異なり、FRBの利上げが終盤に近付いてきたと受け止められていることがあるとみられます。昨年5月以来インドの利上げも続いており、金融政策のペースの差を意識したルピー売りは一巡している可能性があります。足元の米金融不安の高まりもあり、米ドルは上値が重くなっています。
- また、昨年秋以降インドの貿易収支赤字が縮小傾向にあることも、経常赤字がマイナス要因とされるルピーの売り圧力を弱める可能性があります。
- 昨年来インド株を大きく売り越してきた外国人が、3月に入り、買い越しに転じていることも注目されます。インドの成長期待から資本流入が増加すれば、ルピーの安定化につながると期待されます。



(注1) データは2022年3月15日～2023年3月15日。
(注2) 右軸は逆目盛。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

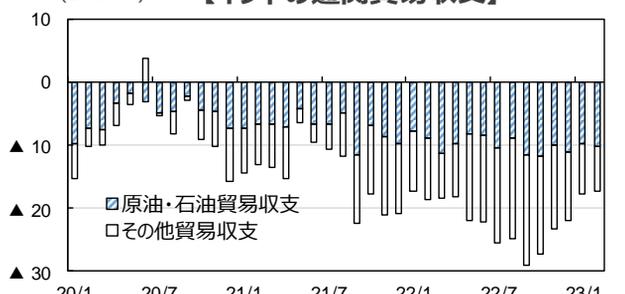
【インドの政策金利と消費者物価】



(注) 政策金利は2019年1月1日～2023年3月16日。
消費者物価指数は2019年1月～2023年2月。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(10億ドル) 【インドの通関貿易収支】



(注) データは2020年1月～2023年2月。

(出所) CEICのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2023年2月28日 **インド株は出遅れも、高い成長期待から挽回へ**
2023年2月14日 **経済成長を後押しするインドの来年度『予算案』**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。